



特定非営利活動法人
神奈川県環境学習リーダー会
会報 No. 61 2008年
 2月 3月

目次

総会開催案内 1	環境ボランティア養成講座終了 5	賞味期限と消費期限 12
役員会・理事会報告 2	部会報告	会員の広場
情報交換会・懇談会状況報告 2	エネルギー部会 6	神奈川県から発信する政策提言の
第14回市民環境活動報告会開	ケナフ部会 7	提案 13
催報告 3	自然環境部会 9	リレー登場
山武藤沢テクノセンター見学	大気環境部会 9	沖縄再訪 14
会報告 4	水環境部会 10	C. O. P. 15
環境出前授業実施報告 5	グリーン部会 11	掲示板 16
	地域活動サポート部 11	編集後記 16
	広報部 12	



平成 20 年度 特定非営利活動法人
神奈川県環境学習リーダー会総会開催のご案内

代表理事 吉田 榮一

平成 20 年度の神奈川県環境学習リーダー会総会を下記の通り開催します。

ご承知の通り、地球温暖化をメインに地球環境問題が毎日のようにメディアに取り上げられており、洞爺湖サミット開催を間近に控え、また神奈川県では『クールネッサンス宣言』が1月7日に発表され、そのほか横浜市などでも地球温暖化防止対策計画が進行しております。したがって、我々の活動の重要性が一段と強くなりました。また当会の置かれた状況も特定非営利活動法人化してからの最初の年度を迎えるなど、大きく変わってきておりますので、これらに対応するに相応しい総会にしたいと存じます。ご多用とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、やむをえないご都合で、ご出席願えない場合につきましては、書面（はがき）にて委任または議決権を行使することができますので、「総会資料」をご参照の上、5月7日（水）までに事務局にご返送くださいます様、お願いします。

記

1. 総会開催日時 平成 20 年 5 月 17 日（土） 13:00 ~ 15:00 （予定）
2. 総会開催場所 神奈川県環境科学センター 2階会議室
3. 議題
 - 第1号議案 平成 19 年度 事業報告承認の件
 - 第2号議案 平成 19 年度 収支決算報告、監査報告承認の件
 - 第3号議案 平成 20 年度 事業計画案承認の件
 - 第4号議案 平成 20 年度 予算案承認の件
 - 第5号議案 平成 20 年度役員選出の件
 - その他



総会終了後、神奈川県環境科学センターの見学会開催の予定です。

例年通り、総会終了後は、親睦会開催を予定しております。皆様の楽しい交流の場となれば幸いです。

1. 親睦会時間 16:00 ~ 18:00
2. 親睦会場所 リビエラホール Tel 0463-21-6311（平塚駅ビル ラスカ 6F 屋上）
3. 会費 3,000 円（予定）

役員会・理事会報告

(事務局役員 土屋 俊幸)

2月役員会(2月14日)

確認事項

会員数は正会員126人、賛助会員30人、特別会員6人、合計162人(2月14日現在)。

審議事項

1. 親子で楽しむ環境展
6月14日(土)開催。実行委員長=吉田代表で展示内容等については関係先との調整を図りながら検討を進める。
2. かながわコミュニティカレッジ(以下コミカレとも呼ぶ)実施状況報告
受講生24名で発足、初回から受講生同士の連絡会結成提案があり意識レベルは高い。
資料準備や会計についての説明あり。
3. コミカレの来年度計画
来年度も実施できるように努力する。
4. 横浜こども科学館来年度計画
現在3教室+2教室増の予定で交渉中。
5. 平成20年度理事役員選考
事業中心に推移するとなれば役員任期を一期2年など延長する要あるのでは、との意見あり。
6. 決算
今年度はNPO法人化前と後に分ける。
7. 会報61号の企画
4月27日に印刷予定。総会資料も同封する。
8. 総会資料の作成分担
19年度会計決算、20年度予算、19年度活動報告、20年度事業計画、細則等を役員で分担。
9. みなとスマイルフェスタ2008
3月8日(土)に横浜市市民活動センターで開催。部会展示主体で参加する。

3月役員会(3月13日)

確認事項

定例情報交換会・懇談会開催状況報告

代表理事 吉田 榮一

平成19年度の総会やその他の場で多くの会員の皆様より神奈川県環境学習リーダー会の原点の一つ

正会員128人、賛助会員29人、特別会員6人、合計163人(3月14日現在)。

審議事項

1. 「親子で楽しむ環境展」の企画案
各部会の出展予定を確認。地球をまもる君のパネルは使わない。実行委員長を代表名とし、実際の事務局の作業を熱海理事が担当する。
 2. 細則
内田氏が中心となりまとめた12の細則案について審議し、修正・変更を加えて、すべて承認された。以下、本理事会で審議された12の細則を記す。
 - ・文書類の発行基準
 - ・文書類の改定履歴表規則
 - ・文書類の発行台帳規則及び発行台帳
 - ・ホームページ更新手続き
 - ・K・リーダー会認定事業等の謝礼規定
 - ・協力金に関する規定
 - ・交通費の支払いに関する規定
 - ・会員名簿管理に関する規定
 - ・個人情報保護方針
 - ・入会申込書
 - ・退会届
 - ・特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会・細則
 3. 平成19年度事業報告(案)、来年度事業計画(案)
修正・追加点については、役員間でメールをやりとりして進める。
 4. 部会からの事業報告(案)
本61号会報(各部会の活動報告)に掲載する。
 5. 平成20年度役員、理事検討
素案の説明があった。
 6. 平成19年度決算(部会、K・リーダー会)
上半期は配布資料をもとに、会計担当より説明があった。
- 各議事ともに、出席理事の過半数を超える賛成(定款による規定)を得たため、承認された。

である会員相互の親睦の機会を多く持ってほしいとのご要望がありました。

そのために、平成19年度より定例の理事会・役員会が開催される毎月第2木曜日の理事会・役員会後の午後4時ごろから約1時間を利用して『定例情報や意見交換会・懇談会、懇親会』を開催することにし、平成19年6月より実施しました。ただし、

平成 20 年 3 月と 4 月については、議題審議に多くの時間が必要なためにお休みにさせていただきました。申し訳ございません。

毎回のようにご出席して下さる方もいらっしゃいましたが、参加者が 1～6 名程度で当初考えていました人数よりかなり少ないのが現実でした。そのため何回かは会員の方々に話題提供をお願いし、多少の改良を試みています。開催のご案内が時間と費用などからどうしても E-メール連絡が多くなりますので、情報が届かない方もおられます。申し訳ございません。

引き続きこの会を会員の方々の情報交換・親睦を深める機会にしたいと考えていますので、平成 20 年度も続けて開催したいと存じます。今後は横浜以外の地区での開催も実施したいと考えています。是非多数の方のご参加をお願い申し上げます。また、改善すべき点や開催方法などについてのご意見もお

寄せいただければ大変ありがたいです。宜しくお願い申し上げます。



第 14 回市民環境活動報告会 開催報告

新たなスタートを模索しよう

実行委員長 猪股 満智子

2 月 17 日(日)、例年通り寒い日和でしたが、氷雨にならなかつたのが幸いしてか出足も好調、132 名の参加となりました。積極的に応募して下さった参加グループや個人の発表者の活動に裏付けられたプレゼンテーションは、回を重ねる度に内容、技術共に充実し、目を見張るものがあります。当会員にあっては、地域に根付いた保全活動の実践例はよい刺激となるでしょう。夫々の発表の内容は事前チラシと要旨集での紹介でお許し願ひ、例年と趣向を変え今後の運営、方向性を見出していただくための参考に、裏方の話などをさせていただきます。

実行委員には前年からの経験者も多く

今回はここ数年来続けてきた実行委員会方式による県環境科学センターとの共催型事業の一応の締めくくりとしての運営になりました。本年度は 10 名の実行委員中、当会実行委員は当初 6 名。その内、初経験者は 3 名。県環境科学センター(以下 KERC)、環境計画課との協働でもあることから、委員会開催は夕方 5 時から短時間(次回からの市民運営型ならば都合のよい時間設定が可能)です。しかも前年度実行委員長を務められた香川興勝さんが初回準備会に来てくださり、後日に過去の実行委員会の分厚

い集積ファイルを譲り受けました。委員長としてこんなに心強いものはありません。その後の実行委員会は本番までに 3 回のみ。内藤克利委員の集約設定による委員共通電子メールでの連絡、やり取りを活用したお陰で 2 回でもよいのでは、という声もありました。

役割分担を徹底し

発表者応募の呼びかけは会報を待てずに当会登録者メールや KERC、県地球温暖化防止活動推進センター『エコ BOX』のホームページに掲載。開催案内は朝日新聞神奈川マリオンや湘南リビング、タウンニュース等地域ミニコミ紙、横浜市市民活動支援センターのメルマガ『はまじゃん』でお知らせできました。

応募発表者が揃い発表順が決まったところで、開催チラシを昨年に引き続き安藤紘史委員が作成。従いまして、今後実行委員会へより多くの団体が加われば、広報紙に頼らずとも人脈や口コミによる参加も広がる可能性も出てきます。但し、2 回もの掲載・取材お願ひを発信したからか、本番後半に神奈川新聞が取材に駆けつけ、写真入で紙面を割いて貰えました。

基調講演は私たちへの問題提起

実行委員会 1 回目: 9 月 28 日、役割分担と発表規模の決定、今後のスケジュールの確認。経験者の高橋尚道委員から早速、基調講演候補として新聞一頁広告記事『水危機への挑戦』が提示される。『便利な世の中にあつて今、農・工業生産資源としてのみならず、飲料水不足や水質汚染が世界的な問題になつ

ている。地球温暖化が拍車をかけ、降雨の偏りや海水面上昇などが加わると、極端な干ばつ、水不足の危険性の一方で水害の急増により食料生産への影響が世界規模で深刻度を増す。水は限りある資源、水のインフラ整備・管理することと同時に世界規模での技術協力が求められる』という内容で興味を引く。欠席者には他の基調講演候補を推挙して貰うことに。

2回目：11月16日、発表者は既に埋まる。土屋俊幸委員に基調講演候補の東京大学生産技術研究所、沖大幹教授についてホームページで経歴、スケジュール等詳細を報告して貰う。12月の『水サミット』等ホームページ上では『講演依頼は当分お受けできません』とスケジュール公開している。市民活動の視点で講演者を推挙された鎌田裕二委員からの「駄目元でお願いしてみても」との勇気付けメールでふっ切れた。土屋委員に講師料も正直に明示した講師依頼書を作成してもらい、当会パンフと会報を同封して郵送することに。返事を待つ間は内心ハラハラ。

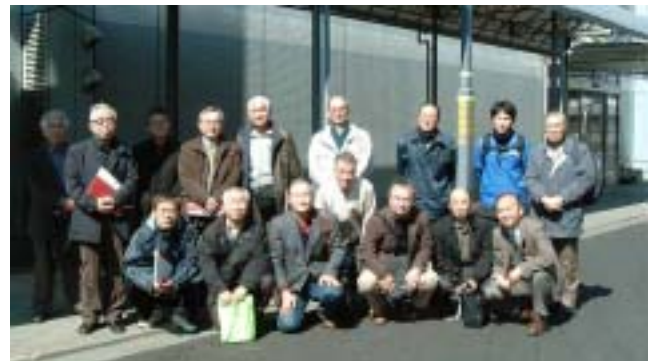
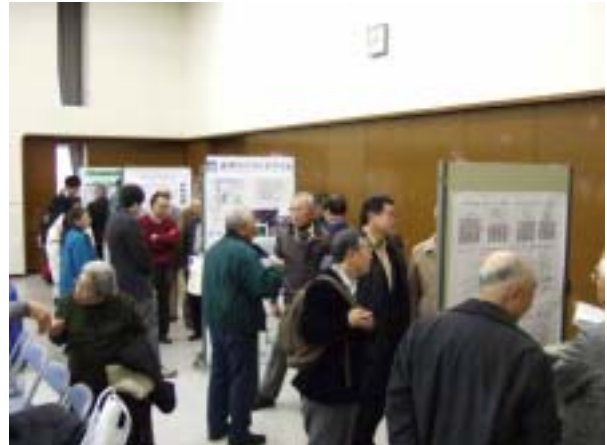
ラッキー！ 沖教授から「お受けします」のメールが届く。後は発表要旨集の準備とそのフォローをKERC野崎氏が担当してくださり、沖教授担当を土屋委員にお願いした。

3回目1月25日、当日の役割分担と当日手伝っていただけるスタッフの確認のみ。ただし、沖教授の講演要旨が未着のため催促を要し、別刷りとなった。講演要旨は「世界の水問題と日本」。市民環境活動報告会要旨集かKERCホームページからご参照いただけましたら幸いです。

本番2月17日、県民センター11階で開催中の「環境ボランティア養成講座」の受講生半数以上の方にもご参加いただけ、環境実践活動の参考にしていただけたかと思えます。

第15回は平成21年2月21日（土）に開催

会場予約の関係から、KERC野崎氏がとりあえず同じ会場を予約確保してくださいました。委託型か、後援型かはKERCの判断になるでしょうが、ひとつステップアップして主体的に市民運営型を任されることとなります。まず環境学習のリーダーとして活動報告会がどうあったらよいかを見据え、開催運営に興味のある方、また過去の経験者も、アイデア、ノウハウをもって参画をお待ちいたします。



『(株)山武 藤沢テクノセンター見学会』報告

地域活動サポート部 熱海 宗信

3月8日（土）11時から1時間、テクノセンターを見学いたしました。

参加者は、吉田代表はじめ、会員以外の方、コミカレ受講されている方など16名の方です。

循環型社会構築の大きな鍵となる『生ゴミ活用策』の先端テクノロジーを、処理機を実際に稼働して頂きながら生暖かくて、臭いの殆どナイ農業堆肥に実際に触れさせていただくことができました。

自治体における一般ゴミの更なる分別化（焼却部分の減少策）の推進は、ひとえに生ゴミの農業堆肥化に掛かっていることは言を俟たないと考えます。

生活廃棄物の効果的な活用策の方向付けを、今回の見学会を通じて参加された方々にご理解頂く機会

となったことを期待し、見学会の報告と致します。
この会をご準備頂きました(株)山武の田辺様(15期生)、長谷川様へ深く感謝申し上げます。

またご参加いただいた方々へ御礼申し上げます。ありがとうございました。

グリーン教育支援システムによる環境出前授業実施報告

エネルギー部会長 安藤 紘史

県のグリーン教育支援システムに係わる出前授業を、去る3月3日(月)川崎市立川中島小学校で実施したので報告する。

対象は5年生3クラス92名で、2班に分け各々2時間ずつ、地球温暖化と省エネについて行った。

この学年は、一年間にわたる環境学習を続けており、その集大成として「行動につながる内容」にして欲しいとの要望があり、それに答えるべく「自分達でできるエコって何だろう?」をテーマに、次に力点を置いた内容で実施した。

地球温暖化について自分の問題として感じてもらう為に、温暖化シミュレーションとその影響の広がりについて説明。

エネルギーの大切さを体験してもらう為の実験を多く行った。例えば水を30秒間出しっぱなしにすると何リットルになるか計測、レジ袋と同じエネルギーを消費する為に走るとどのくらい大変か、6人で何ワットの電気が起こせるか、等々。

自分でできる省エネの方法を知ってもらう為に、浪費家庭と省エネ家庭を比べて違いを探すゲームを行った。

それを参考に自分のできそうな省エネ目標を決め1週間行い、実行できたか記録を取ってもらった。

1週間後その記録表を集めたところ、多いクラスでは90%以上の児童が提出した。

その内、半分の児童がほぼ毎日省エネ目標に取り組み、まあまあ出来た児童が35%程度、余りできなかった児童は15%程度であった。

その感想にも、苦労したこと、工夫したこと等々沢山の記載があった。更に「省エネを続けていたら楽しくなった」「エコバッグを持って行くと買い物も楽しくなった」「親にコンセントを抜く意味を教えてあげて楽しかった」・楽しさを感じる様になった児童も沢山いた様である。

児童のスキルも高く、所定の効果を上げる事ができたと考えられる。この授業に携わったメンバー6人は、早朝からの取り組みであったが、この反応を見て一層のやりがいを感じた。

新年度も、啓発活動に積極的に取り組んで行きたい。



6グループに分かれて二つの家庭の違いを探す

かながわコミュニティカレッジ

「環境ボランティア養成講座」

3月25日終了

総括管理担当 猪股 満智子

NPO 法人格取得後初めてのまとまった大型受託事業、1月15日開講の「かながわコミュニティカレッジ」「環境ボランティア養成講座」が毎火曜の午後、11日間18コマの講座を終え、閉講しました。

環境ボランティアとして活動するには、環境問題

に関する知識はもちろんのこと、行動に必要な経験、行動力、それにボランティアを支える楽しさや明るさも求められます。そういった内容を有償で学ぼうという方はいったいどういった人々なのだろう、はたしてどのくらい人が集まるのか、企画準備をしながら内心は半信半疑でした。蓋を開ければ30名の定員に対し24名の申込み。実際には、スタート当初から再就職等で受講できない方の欠席が出てきて、最終的には20名の方が県NPO協働推進室からの修了証を手に入れました。

受講生はさすがに積極的で、一方的な講義よりも会話での質疑応答や実技体験、実践例などお互いの

コミュニケーションを望まれている方が多く、主催側用意の講義毎の5段階評価式アンケートにもそのことが表れ、当初はそれを拠り所として参考になりました（当初、当会も毎回のアンケートを予定しましたが、開講直前になって前記アンケートが毎回出され、後日に集約したものを頂けることが分かり、取り止めました）。受講半ばになって受講生連絡会呼びかけの動きが起こり、約13名の方による連絡会を形成し、当会との連絡を維持しながら、活動や環境学習の機会を得たいとの張りきり様です。

参考までに、今回の11日間18コマの講座を過去に遡れば、平成10～12年度の「県環境学習リーダー養成カリキュラム検討委員会」での長期型（実技編を充実）カリキュラムへの要望と、その反映『6～8期生への長期カリキュラム講座』実施とほぼ同質のカリキュラムといってもよいでしょう。違う点は現在の環境問題が「公害から身近な暮らしの問題解決型」に変遷していることから、市民セクターとしては伝えやすく、当会としてどうしても不足のところを県環境科学センターや自然環境保全センター研究員にお願いしたり、地域性を考慮して横浜市や実践活動者にお世話になったことです。

今後のこのような講座の企画・実施に対しては、今回のこの講座を実施しての経験を活かし、念入りに検証し、さらなる努力、研鑽をしていく所存です。

大変お世話になった県NPO協働推進室NPO支援班（現県NPO協働推進課）はじめ、多くの関係された方に厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



まずはオリエンテーション



丹沢のブナについての講演を聴く



川の風景観察 ここは何点か



これからの環境活動について発表し合う

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

平成19年度活動総括

主要な点は次の通りです。

例会を利用した情報交換（12回）

毎月の例会では、スキルアップの為に情報を持ち寄り相互交換。また、7月は部会外から内田さんを招き照明の解説を受けた。

見学会

横浜市の風力発電所見学会に参加 7月26日

参加者 6名
 啓発事業
 ・県グリーン教育支援システムに係わる出前授業
 3月3日川崎市立川中島小学校において実施。
 所定の成果をあげることができた。
 (詳細内容は別記事として掲載)
 ・横浜こども科学館主催環境体験教室
 2月9日省エネ教室「節電コンセントを作ろう」
 をNPO法人アース・エコと共同で実施。20名の
 子供に対して「エネルギーの大切さを感じ、行動
 に移してもらうための体験教室」であったが、そ
 の感想アンケートからも大きな反応を感じること
 ができた。
 K・リーダー会の一員として各種事業に参加
 「親子で楽しむ環境展」「アジェンダの日」「みな
 とみらいスマイルフェスタ 2008」等に実演や実験
 を中心に参加。
 啓発用実験機材の整備
 電圧計、電流計、手回し発電機、書籍等を購入。
 今後の啓発に活かして行きたい。

平成 20 年度活動方針
 次の点を重点にすすめる。
 毎月の例会での相互情報交換とスキルアップ
 (見学会も開催)
 リーダー会の啓発事業に積極参加
 省エネ生活の率先垂範とその成果の活用

活動予定 (平成 20 年 3 月 ~ 20 年 6 月)
 定例部会 (於: 県民サポートセンター)

4月 9日(水) 15:10~17:00 601号室
 5月14日(水) 15:10~17:00 601号室
 6月11日(水) 15:10~17:00 601号室
 親子で楽しむ環境展
 6月14日(土) そごう前: 新都心ビル展示場

活動報告 (平成 20 年 3 月)
 3 月度定例部会:
 3月12日(水) 15:00~17:00
 場所: 県民サポートセンター 601号室
 参加者: 中島、児玉、岩沢、二村、上野、桑原、
 安藤、
 来年度活動方針案について審議
 スマイルフェスタ 2008 打ち合わせ
 マンションの共通部門の消費エネルギーについ
 て・・・共通部分まで算入したマンションの一軒当
 りの消費電力は、戸建ての消費電力と大差がない
 事例が出た。要注意。(桑原)
 LCA まで配慮したカルフォルニア州の環境家計
 簿について(岩澤)
 「温暖化防止・・・科学者からゴア氏への提言」の
 要約 CO₂ 発生源での究極対策(安藤)

出前授業
 3月3日 川崎市立川中島小学校で実施
 啓発事業
 3月9日(土) みなとみらいスマイルフェスタに
 K・リーダー会の一員として出展
 「ソーラー発電と手回し発電で模型電車の競争」
 「電球の電力比較」

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

平成 19 年度活動総括
 昨年度は下記の活動をして参りました
 1. K・リーダーの要請での展示会に積極的に参加
 しました。
 6月の「親子で楽しむ環境展」、7月~8月環境科
 学センター主催の「子ども環境体験教室」に参加
 致しました。
 2008年3月 横浜共同オフィスでのイベントに
 参加しました。
 2. 各地でのケナフ紙漉きに協力しています。
 横浜市、平塚市、相模原市、等で実施致しました。
 3. 更なる研究活動及び講演会などで研鑽しました。
 18年度は従来から交流のある日本ケナフ開発

機構(理事長 釜野神奈川大学名誉教授) 非木材
 紙普及教会、広島ガスなどと交流しました。

平成 17 年から環境科学センター野崎さんの幹
 旋で地元の農家から耕耘機を借用しましたので作
 業は比較的楽になり、土も細かく耕せましたが堆
 肥不足を感じましたので、18年度からはK・リー
 ダー会員の方幹旋で堆肥も入手出来るようになり
 ました。
 4. 本年度も相模原市に工房をお持ちの第一期古澤
 さんの御支援により、6月の「親子で楽しむ環境
 展」において100%リサイクル用紙を使った「小
 物入れ工作教室」を実施し好評を得ました。

平成 20 年度活動方針
 環境科学センター及び環境学習リーダー会のご協
 力と支援を得て、ケナフ部会の活動も 1999 年発足

以来、10年目に入りました。本年度も環境科学センターの隣地を利用させて頂き進めています。今後とも地球環境の改善と言う共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしています。昨年度は私の住んでいる相模原の小学校、公民館では例年に増して大変興味を持って頂きました。

本年度も昨年同様、環境学習リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用させて頂き、更なる研修を図っていきたくと考えています。

活動予定（平成20年4月～5月）

4月20日 ケナフ部会例会。ケナフ種まき、親子で楽しむ環境展準備

5月定例会、日時未定

活動報告（平成20年3月）

ケナフ部会員が携さわった2008年2月～3月までの活動について報告します。

1. 定例会

- ・1月20日 本年度の決算、及び次年度の計画について検討。ユードム製のCO₂センサーの活用について
- ・2月7日 東京ガス横浜支社見学でCO₂温暖化実験装置の見学を実施しました。
- ・2月24日 平成20年度の年間スケジュールの検討及び環境科学センターが平成20年度からNPO等に発注予定の「子ども環境体験教室」についての概要及び取り組みについて
- ・3月23日 畑起こしと連絡事項の報告及び検討



畑起こし風景



手巻きの準備完了

2. 対外活動

1月23日 相模原市大沢小学校4年3組34名に地球温暖化の状況及び植物と生物との相関関係、及びケナフ製品について説明する

3月21日 am10:30～12:00間で相模原市大沢小学校4年3組34名、保護者8名先生1名にケナフを利用した紙すき体験を実施。各自2枚



紙すき指導風景



訪問した相模原市大沢小学校

1月30日 平塚市立江陽中学校「ケナフを使った紙すき」体験

平塚市江陽中学校の養護課程の生徒及び同伴者約15名が紙すき体験をする。大変楽しそうに紙すきをしていました。



紙すきの方法を説明



実際に紙すきをしているところ

3月3日 AM、相模原市中央小学校2年生3クラス（約85名）CO₂についての説明、地球温暖化についての説明、ケナフ茎から紙に刷るまでを体験させる。

3月7日 AM 相模原市中央小学校2年生3クラス（約85名、保護者12名、先生3名）に対して、地球温暖化の話、及びケナフによる「紙すき」体験を実施する。



地球温暖化についての説明をしているところ



紙すきで作った作品を写真立てに掲示

3月9日 横浜市市民活動共同オフィスでの「みなとみらいスマイルフェスタ」にケナフ部会も参加。「ケナフを利用した紙すき」実施。約70名方が体験されました。

~~~~~



## 自然環境部会

部会長 土屋 俊幸

### 平成 19 年度活動総括

平成 19 年度は、主にイベントでのパネル展示を行った。参加したイベントは、「親子で楽しむ環境展」(6月)「アジェンダの日 2007」(10月)「市民環境活動報告会」(2月)である。また、部会合を数回、3月には自然観察会を実施した。

### 平成 20 年度活動方針

2ヶ月に1回のペースで、自然観察会を実施していきたいと考えている。また、「親子で楽しむ環境展」などの展示・発表の機会には、積極的に参加する。

### 活動予定(4月~5月)

正式には決まっていないが、5月に横浜周辺で、自然観察会を開催しようと考えている。ぜひ、部会員以外の方もご参加ください。

また、6月の「親子で楽しむ環境展」に向けて、展示の準備を進める(部会合を開く)。



### 活動報告(2月~3月)

2月7日に横浜で部会合を開催した。

2月17日に開催された「第14回環境市民活動報告会」において、「緑地率から見たかながわの自然環境」というタイトルでポスター発表を行った。

3月23日には、厚木の神奈川県自然環境保全センターにおいて、センターが実施しているミニ観察会に参加した。



以前にメーリングリストでも送りましたが、改めて自然環境部会に参加する部会員を把握したいと思います。まだご連絡いただけない自然環境部会員を継続される方、新たに参加したい方は、メールまたは総会の際に土屋まで声をかけてください。

## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

### 平成 19 年度活動総括

**部会運営** NPO 法人化に伴う K・リーダー会人事体制の改革から、以前のような部会員の事業担当が適わず、部会長が副代表兼任で担うことになり、部会、理事会共に1人に負担が増した。ただし NO<sub>2</sub> 測定、PRTR・VOC データまとめについては専任者が精力的にまとめてくれた。夫々の次期担い手の人材養成が課題になる。

光化学オキシダント発生頻発を懸念し、7月独立行政法人・海洋研究開発機構のオゾン予報説明会に出かけたり、部会主催で相原敬次専門研究員による学習会で県下の影響等を学んだ。

**NO<sub>2</sub>測定** 平成19年6月7~8日の24時間測定、6月17日分析。12月6~7日の24時間測定、12月15日分析。測定者自ら納得のいく測定地点の整理が2年越しで完了し、展示会や講座等に合わせて MANDARA ソフトを活用した見やすい説得力ある

マップづくりができた。

**PRTR・VOC プロジェクト** 平成19年7月19日、9月15日開催。農薬への利用が問題になることから、平塚にある県農業技術研究センターへ研修に出向く。17年、18年度のホームページ公開の PRTR 報告をデータとしてまとめ、展示会や講座で発表。

**自然系モニタリング「気候変動を見守ろう」** 地球温暖化による気候変動を生き物で毎年の推移を見ていこうと、平成19年1月からスタートさせた。初年度のため集約数は少ないが19年度の地図化は現在作業中。

### その他の活動

・6月親子で楽しむ環境展、10月県主催アジェンダの日 2007 展、平成20年2月市民環境活動報告会パネルセッションにて2007年 NO<sub>2</sub> 測定報告、平成18年度 PRTR・VOC 集約データを発表。また12月神奈川環境保全推進会議・アジェンダ推進センター共催「かながわ地球温暖化防止の集い“そら・くるま”分科会」等に出講、データ活用発表。その後指標づくりにも参加。

・環境教育・環境学習として 7月横浜こども科学館事業「洋光台サイエンスクラブ」自然環境教室で「大気汚染・地球温暖化をしらべよう」講師役、11月アジェンダ推進センター主催専門研修講座「そら」の企画、講師役、1月かながわコミュニティカレッジ「環境ボランティア養成講座」大気環境講師役等。

#### 平成 20 年度活動方針

1. NO<sub>2</sub> 測定の継続 6月5~6日、12月4~5日
2. PRTR・VOC プロジェクトで農薬をテーマに追う
3. 小学生にもできる自然系モニタリング「気候変動を見守ろう」の普及
4. 光化学オキシダント、CO<sub>2</sub>を取り入れた環境教育、環境学習
5. マップデータ作成講習会等部会員スキルアップ

#### 活動予定

- 5月24日(土)13:30~16:30 NPOセンター大船  
部会後、捕集管ろ紙充填(ピンセット持参)
- 6月5日夕~6日夕の24時間 NO<sub>2</sub>簡易測定
- 6月14日(土)環境展出展(横浜新都市プラザ)
- 6月15日(日)13:30~16:00 KEREC 実習室  
NO<sub>2</sub>分析、こども科学館教育打ち合わせ
- 7月12日(土)13:00~はまぎんこども宇宙科学

館

洋光台サイエンスクラブ「自然環境教室」 予定

#### 活動報告

- 2月9日(土)13:30~16:30 NPOセンター大船  
出席;井上、草野、近藤、佐伯、立石、森脇、安丸、村上、猪股
- 12月度 NO<sub>2</sub>測定評価  
平成20年度に向けて総括、方針案検討  
会計仮決算報告

ご参加ご協力お願いします!

#### 気候変動を見守ろう

身近な生き物を指標に毎年の日付報告下さい

キーワードは「いつ、どこで、初見、初聞き」

対象例:カントウタンポポ、ツバメ等鳥類、セミ

チョウ類(特に南方系)、トンボ

遠出をする必要はありません。自宅周辺、外出の際などに、ほんのちょっと注意をばらうと、毎年の様子、季節変化が手に取るよう。毎年の変化に注目!

送り先 Tel & Fax 0467-32-6858 猪股満智子

Eメール km\_inmt@ybb.ne.jp

## 水環境部会

部会長 斉藤 昭一

#### 平成 19 年度活動総括

2月24日15時、環境科学センターにて部会を開催、石綿先生、安丸前代表、の出席を得る。(1)コモチカワツボとゲンジボタルの関連性、(2)「川の連続性」について、今年の活動の基本活動についてのお話をいただいた。

4月より「川の連続性」の調査エビ、カニを中心に開始する。5月、6月、7月鴨宮駅(海岸側)9:00集合で開始。6月環境展に参加。後半期は9月、10月、11月の3回の調査をもって終了した。

#### 平成 20 年度活動方針

今年度も「川の連続性」についてエビ、カニを中心とした調査をする。さらに今年は相模川にも調査の範囲を拡大して行く。前半期4月、5月、6月、7月は酒匂川中心に活動。後半期9月、10月、11月は相模川下流より調査活動を開始する。ここよりは

今後20年間にわたり40ポイントを定めて調査を展開していきます。水環境部会員はそれぞれが「エビ、カニ」の専門家としてこの一点だけに的を決めて活動をしてまいります。

#### 活動予定(4月、5月)

4月20日(日)JR大井松田駅 山側9:00集合 酒匂川調査

5月18日(日)JR大井松田駅 山側9:00集合 酒匂川調査

#### 活動報告(2月、3月)

2月2日15時、環境科学センターにて部会を開催、石綿先生を中心に今年度の活動を確認する。石綿先生が定年となるため環境科学センターの中心者は齋藤専門研究員に引き継がれる。但し私達の活動の中心者は石綿先生にかわりません。またセンター内に水環境、水生生物に関する研究調査、資料室を用意していただけるとのお話です。

3月18日(火)水環境コミュニティカレッジに参加する。鎌倉市神戸川流域にて開催、石綿先生の講

演を中心に「水辺の環境と水生生物」を学習する。水環境の学習については其処に流れる「川の状態、その実態を知る事」が一番大切な事であると話す。

収穫としてこの時期に広町緑地では水温 15 のなかでトビケラ、カワゲラ、ヤゴ、ガガンボ、ヒル、ハグロトンボ他採集、またカワゲラの成虫が数匹手にすることができた。日枝橋下では水温 15.5 のなかでコモチカワツボを採集した。水温 19 になっているたまり水の状態のところでは一枚のレンガの下

に 20 個ものサカマキガイが採集された。水生生物、水質検査、「川に入った」人はそれなりに成果を得たと思います。

またこの日の水環境実践活動にお忙しい中を割いて「浅岡 幸男氏、門間 光次氏」のお二人が参加協力してくださいました。荷物運び、調査、後片付け等、たいへんにお世話になりました、誠に有り難うございました。心より御礼申し上げます。

## グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

平成 19 年度活動総括

### 1. 学習プログラムの充実

2 年間の経験を活かし、子ども向け、大人向けのプログラムの内容を充実させ、プログラムの「道具セット」をつくり、プログラムの実施依頼があれば、いつでも、どこでもすぐに対応できる体制をめざします。

### 2. 他団体とのつながりをつくる

地域小売店等と連携した学習会の実施や、生産者との交流など、他団体とのつながりを作っていくことをめざします。

19 年度の活動方針として、開発したプログラムをいつでもすぐ実施できるような体制を作ることを目指していましたが、スーパーの協力を得て実施した鎌倉市立大船小学校での授業実施、県環境科学センター主催の環境活動人材育成講座「環境学習指導コース」でのプログラム紹介、消費者教育教員研修の実施を通じて、部会員それぞれが経験を積むことができました。特に年度後半は、諸事情により活動できる部会員数が減ってしまいましたが、今までの経

験を生かし、無事に事業を実施することができたことは、大きな収穫でした。

平成 20 年度活動方針

### 1. 情報収集及び実践活動の充実

グリーン購入に関する情報を部会員各自が収集し、知識の向上と生活での実践に努める。

### 2. 当会が実施する事業への協力

当会が受託する各種講座等の実施に協力する。一緒に活動して下さる方を大募集しています。興味のある方は、ぜひご連絡ください。

活動予定(4~5月) なし

活動報告(2~3月)

2/4 ミーティング

コミュニティーカレッジ講座内容の検討

2/19 コミュニティーカレッジ講座実施



## 地域活動サポート部

部会長 熱海 宗信

平成 19 年度活動総括

8 月の役員会において、支部組織(2~6ヶ所)の設置を提案させていただき、その後も役員会でいろいろと議論を続けております。地域活動に精通した会員皆様の活動の重要性がさらに高まってくると思いますので、今後もさらに地域活動をサポートする方針で進めます。これからは、『K・リーダー会』が身軽にそれを担える法人として存在できるか否かが、地域の会員に求められると考えます。

平成 19 年度の部活動は、以下の通りです。

施設見学会 3月8日(土)11時から『生ゴミ処理機』 参加者 16名  
於 (株)山武 藤沢テクノセンター

平成 20 年度活動方針

今年は、京都議定書が交わされて愈々その成果発効が問われる年であると同時に、『洞爺湖サミット』の開催も間近に迫っています。

地域懇談会・施設の見学会等の開催を企画設定するように取り組む所存ですので、皆様の御意向を是非サポート部までお寄せ下さい。

私的には、これまで同様都内・多摩地区における環境がらみのシンポ・講演会・展示会などの探訪レ

ポートを引き続きお伝えしてゆくように腐心してまいります。

~~~~~

広報部

部会員 長村 吉洋

平成 19 年度活動総括

1. 会報発行

会報 56～61 号を発行しました。NPO 法人として設立後の会報 58 号を、若干のレイアウト変更を行い、「設立記念号」として発行しました。

2. ホームページ更新

K・リーダー会主催ならびに関連するイベント、行事の案内・紹介を K・リーダー会ホームページ上に掲載しました。また、発行した会報を pdf ファイルとして、ホームページ上に掲載しました。

= 豆知識のページ =

賞味期限と消費期限

広報部 長村 吉洋

賞味期限とは、一般的に 6 日以上、日持ちのする食品に使われ、保存方法を守った場合、おいしく食べられ、かつ食べきって欲しい日にち、という意味である。この日にちは、かなりゆとりのある期限日なので、多少過ぎても、品質は落ちるかもしれないが食べられるものが多い。(賞味期間と賞味期限は混同して使われていることがあるが、意味は同じ。)

それに対して、消費期限というものがある。あまり日持ちのしない、ナマモノと言われる加工食品に対して表示されるもので、パンや牛乳、弁当等に書かれている。多くは 5 日以内に消費すべきものに対してつけられている。この日にちはギリギリではなく、多少安全策をとって期限表示を短めに設定してあるので、1 日過ぎたからといってすぐ食中毒を起こすわけではないが、日にちの過ぎたものを食べて何かあれば、それは食べた人に責任があるということになる。ナマモノは別として、保存方法がよければ、消費期限を多少過ぎても大丈夫なことも多い。

いずれも、安全を見越して設定されている日にちであるが、この日付を偽って表示する会社が世を騒がせているし、冷凍ギョウザの農薬混入問題など、

平成 20 年度活動方針

NPO 法人としての活動が活発化する中、会員相互の情報交換の場としての会報発行をより充実させていきたいと考えています。隔月の発行回数についても、今後どうするのか、再検討していく予定です。また、K・リーダー会の活動内容などについて広く一般に紹介する上でのホームページの役割は大きいと思われ、今後より充実したページにしていくよう努力したいと思っています。

食の不安に関する話題が後を立たないのは、残念なことである。最終的には、食べられるか、食べられないかは、人間の五感で判断するしかないのであろう。

賞味期限が 1 日でも過ぎると捨ててしまうという人が結構いるようであるが、大変もったいない話である。多少すぎても、まだまだ充分食べられるものが結構ある。すぐゴミにしてしまう前に、まず、賞味期限と消費期限という 2 つの設定期間があることと、それらの意味を復習してみたい。エコ・ショッピングと共に、エコ・コンシューマーでもありたいものだ。

参考になる web site

農林水産省「消費期限と賞味期限の違いは？」

http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/fs/label/processed/limit.html

カラダに e・サイト health クリック「知って得する食品情報」

<http://www2.health.ne.jp/library/5000/w5000224.html>



会員の広場

神奈川から発信する政策提言の提案

「21世紀に向けた低炭素・低資源社会に向けた地域社会の構築」(仮題)

石丸 博司(伊勢原市)

提案の背景

K・リーダー会のOBとなって半年が過ぎましたが、K・リーダー会のますますの御発展を祈りつつ、切羽詰まってきた地球環境問題に関心のある皆様へメッセージを書かせていただくことを嬉しく思います。

今年度に入ってマスメディアはこぞって「環境元年」と銘打って報道しています。昨年1月発表の国立環境研究所の調査によると、地球温暖化問題が10年前と比べ7倍に増えて、廃棄物問題を上回り地球温暖化問題が重要な環境問題として1位になりました。昨年2月から始まったIPCC報告で地球温暖化問題化問題が一挙に熱を帯びて論議されて来ました。

昨年4月 環境省主催の「NGO/NPO・企業環境政策提言」の発表を聞いて各団体の発表テーマとそこに至る視点と論理の構築に関心しました。特に最優秀賞をとった「多主体連携による家庭版ESCOスキームを用いた家庭部門の省エネルギーの推進」は別々の主体(地域家電販売店、金融機関、地球温暖化防止活動推進員(センター))が1つの目標に向けた連携のシステムを構築した発表に関心させられました。詳しくは、

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8168> をご覧下さい。19年度については、

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=9492> に掲載されています。

これら団体の発表は自分たちの活動をより効果的なものにするために、新たな視点で活動を広めていくための政策を提言するといったものと思います。つまり「補完性の原理」にのっとり提言していると感じました。そこで、下記に記したテーマを担った地域社会に向けた政策提言をしてはどうかという提案です。

論点1 IPCCが提起している適応と緩和策

(第2、第3作業部会・削減などの緩和策の報告から)気候の「破局」をいかにして避けるか

「2050年までに世界の温室効果ガスの排出を半減する」そのために気候変動に対して脆弱な地域に対する適応など含めて地球レベルの取り組みと技術開発を、エネルギー、運輸、建築、産業、農業、林

業・森林、廃棄物の各分野について提案をしています。詳しくは、

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8339> をご覧下さい。

当然ですが上記の取り組みは国レベル(国際)研究所、産業界の役割が主で進むものと思います。しかし、我々はその大きな流れにまかせることなく、市民社会の受ける影響や変化を予想し、取り組みを考える必要があるのではないのでしょうか。

論点2 スターンレビュー(気候変動の経済学)から

この発表では温暖化対策の早期着手が叫ばれており、緩和策と適応策の両者は気候変動に対し強固な対策を実施にする値打ちがあるとしています。

リスクと費用は総額：世界のGDPの5~20%

対応策の費用は：世界のGDPの1%程度(早ければ早いほど)

そして効果的な対策として、炭素の価格づけ、技術開発、行動変化に係わる障壁の除去、の3要素が必須であるとしています。中でも行動変化に係わる障壁の除去(信頼できる情報の不足、取引費用、行動上・制度上の惰性などの除去)が、排出量削減政策として必須要素であるとしています。詳しくは、<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8046> および

<http://www.nies.go.jp/whatsnew/2007/20070216-3.html> をご覧下さい。

私たちとしては、市民社会の受ける影響や変化、予防・保全的な取り組みを、今から考える必要があると思います。

論点3 日英共同研究「低炭素社会の実現に向けた脱温暖化2050プロジェクト」

ポスト京都議定書以降の「低(脱)炭素社会」と取り組みも始まったばかりのようですが、どんな社会を描こうとしているのでしょうか。たたき台としての2つのシナリオは、A活発な回転の速い技術志向の社会(ドラエモン型)と、Bゆったりややスローな自然志向の社会(サツキトメイ型)です。

それでは、我々の地域社会は2つのシナリオのどちらかに収まるのか、又は別なシナリオがあるのか、そして、市民社会の受ける影響や変化、取り組み、などを考える必要があると思います

論点4 「美しい星50」について

「美しい星50」達成のための2つのビジョンは、「革新的技術開発」(CO₂を回収して地下や海底に貯留するCO₂ゼロの石炭火力発電)および、「低炭

素社会づくり」(自然と共生した生活、コンパクトなまちづくり)です。当面の課題として京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開として

・目標達成計画を見直し、政府が率先的取り組みを進める、

・「1人1日1kg」削減をモットーに努力と工夫を呼びかける、としています。

しかし、家庭で出来る細かなメニューを実践しても1kgには届きません。エアコンや冷蔵庫などの家電製品をエコ製品に買い替えることも提案されていますが、新製品の生産や廃棄の際に排出されるCO₂をどう考えるのか、また買い替えの費用や製品の効率・効果(コストなど)どう評価するのかなど検討する必要があると思います。

論点5 省資源化社会に向けた取り組みの課題

社会は循環型社会形成推進基本法のもとで、関連する8法で動いていますが、それらの仕組みは異なり規制力もなく、個別法を諸官庁がばらばらに進めているのが現状です。形の上ではリサイクルをすすめています、膨大なコストと人手がかかっていますし、相変わらず大量生産、使い捨て、大量リサイクルの社会が実態です。長寿命のリサイクルし易い材料で製品を作り、消費者も長く使い続ける省資源型地域社会はどんな社会なのか、消費者、生活者の視点に立って省資源化社会のあり方を考えなければなりません。

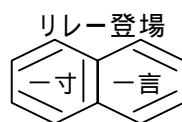
脱炭素社会の実現には大量消費社会からの決別こそが必要であり、地球温暖化対策も循環型社会も、現在の上流(国・省庁・業界・企業)からの発想に

よる社会の仕組みを前提(パラダイム)にする限り限界があると思います。下流(消費者、生活者、地域社会)からの発想、検討と提案が必要だと思います。

ここで云う地域社会は市町村の単位以下で、その構成も市町村や学校、家庭、地域に根ざした町内会やNPO等の団体、流通を含めた事業者を想定するのがよいと思います。

おわりに

当面の活動の更なる継続と環境対策に取り組む必要は、ますます重要になることは必至です。表記提案は市民社会として取り組んでいる省エネ対策の視点を越えた次のフェーズを示唆するものになるのではないかと思います。既存の団体の枠を超えた超党派で関心のある方々が、出来るだけ幅広く集まって取り組もうではありませんか。関心のある方、ぜひ石丸(Tel/Fax:0463-94-8187)あるいはアジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー(agendacorner@kccca.jp)の石丸または長村まで御連絡下さい。



沖 縄 再 訪

高橋 尚道(横浜市)

今年も2月末に、長期滞在プラン(というほどではありませんが)を利用して、避寒を兼ねた一週間の沖縄旅行を楽しんできました。

宿は本島本部町の海洋博公園に隣接したリゾートホテルですが、コンドミニウム風にミニキッチンと必要な食器類が備わっており、数キロ離れたスーパーまで毎日、朝夕2回の買い物バスが運行されていますので、その気になれば自炊も可能です。

公園の総面積は71.6ヘクタールあり、海に面した細長い土地に、沖縄美ら海水族館、熱帯ドリームセンター、海洋文化館、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、

おきなわ郷土村等の諸施設が配置されております。

沖縄県本部町のホームページによると、平成18年度沖縄県入域者数5,637千人中、海洋博公園入園者数が2,991千人だそうですから、来島者の53%が入園したことになります。

人気の中心になっているのは、何と言っても「美ら海水族館」で、豊富な展示は時間を忘れさせてくれますが、特にコバンザメを従えたジンベイザメやマンタ(イトマキエイ)が悠然と泳ぐ大水槽は圧巻です。

また、熱帯ドリームセンター(植物園)では、熱帯・亜熱帯の珍しい植物に出会えますが、「花より団子」派の私には、果樹コーナーが一番のお気に入り、特にブラジル原産のピタンガは、以前、小豆島で植物順化園を運営されていた矢代田貫一郎氏から苗を戴きながら、私の管理不注意で枯らしてしまった経緯があるだけに、赤い実を付けた樹を身近に眺

めることが出来て感動しました。

公園は、水族館、熱帯ドリームセンター、海洋文化館を除いてすべて無料ですので、毎日公園の散歩と、ホテルのロビーで新聞を読み比べたり(全国紙の東京版が、前日の夕刊とともに夕方届きます) 備え付けのパソコンで、あちこちのホームページをのぞき込んだりと、ゆったりした非日常生活を堪能しました。

「花」の季節ではなかったのですが、気温が日中17~18度程度まで上がりますので、ハイビスカス、ブーゲンビレア、極楽鳥花、カンヒザクラ、ツツジ等の花が楽しめ、何度歩いても退屈することはありませんでした。

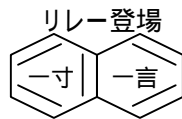
このあたりは、一観光客として見る限りでは、米軍の姿もなく、軍用機の騒音や射撃音とも無縁の、平和で静かなリゾート地ですが、

- 米軍基地施設面積比 全国1位 10.41%
- (神奈川県 5位 0.89%)
- 1人当たり県民所得 47位 1,987千円
- (神奈川県 5位 3,174千円)
- 完全失業率 1位 7.7%
- (神奈川県 23位 3.7%)

(「平成19年10月 100の指標から見た沖縄県のすがた」から抜粋)
 といった厳しい現実があることを見逃してはならないと思います。

子ども時代とはいえ、戦争体験のある私としては、住民を巻き込んだ地上戦で、甚大な被害を出しながら、徹底抗戦を貫かれた沖縄や硫黄島の踏ん張りのおかげで、本土が戦場にならなくて済んだという事実を忘れることなく、元気な内は沖縄観光を続け、ささやかではありますが、沖縄発展のお役に立ちたいと願っております。

今回は齋藤美代子さんをお願いします。



C . O . P .

石山 れいし (茅ヶ崎市)

今日は、自分の活動母体のご紹介をさせていただきます。

団体名 クリーン・オーシャン・パーソンズ
 (Clean Ocean Persons) 通称: C . O . P .

活動内容 神奈川県相模湾を中心とする海岸のゴミ拾い。ビーチクリーンアップに関連するイベントの運営・補助。

活動場所 場所は毎月変わりますが、神奈川県内のどこかの海岸になります。

活動日 月1回のペース

メンバー 神奈川、東京からの20代~30代の男女を中心に約20名。(因みに自分は、上から数えて2番目ですが)

C.O.P.は、1990年7月に発足した(サーフ'90で県民の呼びかけで誕生した団体です。)湘南の海的环境保全・自然保護を目的とする非営利の市民団体です。今までにない自由で新しいスタイルのグループを目指し、“遊びながら環境について考えてみよう”と第3日曜日(原則)のビーチクリーンアップ

を基本に展開しています。たくさんの方々の“身軽”で“気軽”なご参加者を募集しています。

平成17年度には、(財)かながわ海岸美化財団のご推薦で「かながわ地球環境賞」を、また「社団法人全国海岸協会 海岸功労者」を受賞させていただきました。

さてさて、自分の「海岸清掃活動」におけるポリシーは『捨てる人間と拾う人間が違うから海のゴミは無くなる!』これッ、ドジ井坂さんも言っています!

日本人は何でも<水に流す>のが好きなのでしょうか、「海のゴミの7割は河川からの流出ゴミ」という事は既にご存知とは思いますが。

『出来る人が、出来る時に、出来る事を』の思いで17年もダラダラと海のゴミ拾い活動を続けていますが、でもそのダラダラがいいと思っています。17年の間には、当時小学校入学前だった息子たちは、二人とも成人したり、娘も生まれその子もこの春から高校生になります。

「COPの活動では物足りない!」と行って離れていった人もいたり、「ゴミ拾いは、COPにやらせておけ!」と言われたり、色々ありますネー.....

現在、事務局長を務めているメンバーは、発足当時は高校生。彼は、大学生となり、高校の友人・大学の友人をメンバーに勧誘してきました。彼らは、

社会人となり自由な時間が少なくなって一時期は活動から離れていましたが、社会人生活も落ち着いて時間をうまく使えるようになるとまた活動に参加しています。

自分は「お前らは、鮭のようなやつらだなあ。」と書いておられます。彼らは、あまりいい顔をしません。が・・・、

一時期は、ライフワークだと思っていたこの活動がイヤになった時期も・・・

しかし、続けることが大事だと思います。

皆さんも、真夏の炎天下、汗ダクダクになって、海岸でゴミ拾いをしませんか？

とても high? な気分を味わえますよ。

お待ちしております

次は、井上勝義様にお願いします。



(財)かながわ海岸美化財団のビーチクリーナー

掲示板

親子で楽しむ環境展 開催のお知らせ

日時：平成 20 年 6 月 14 日（土）10:00～17:00

場所：新都市プラザ（横浜そごう地下 2 階正面入口前）



事務局からのお願い

会員の皆様で、住所等、連絡先が変更になった方は、すみやかに代表理事 吉田榮一までご連絡をお願いします。

〒233-0012 横浜市港南区上永谷 3-7-2

E-mail : ey-yoshida@c3-net.ne.jp

FAX : 045-844-9622

広報部から会報発行について

会報編集・発行は会員の皆様のご協力により成り立っています。投稿、編集、発行へのご協力をお願いします。会報発行作業は通常、偶数月最初の週末、

土曜日か日曜日の午前中に横浜駅西口、かながわ県民センターで行っています。参加可能な方は広報部（長村）までご連絡ください。

編集後記

花の便りに春を感じる今日この頃ですが、それにしても最早桜は卒業式を彩る花になったようです。この 4 月 1 日からは、いよいよ京都議定書の約束機関に突入し、これから温室効果ガス削減に一層の努力が求められるわけですが、そんななか 5 月には当会の NPO 法人化後初の総会が開催されます。神奈川県内でいろいろな側面から環境問題に取り組んでいる会員の皆さんが、出来るだけ多く出席しそれぞれの地域から、そして神奈川県から温暖化防止への決意表明をする、そんな総会になればと願っています。

広報部 黒澤 宏

発行人：特定非営利活動法人

神奈川県環境学習リーダー会

代表理事 吉田 榮一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

広報部員（編集代行） 長村 吉洋

TEL : 044-870-4878, FAX : 044-870-4879

発行日：2008 年 4 月 27 日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/

振替口座：ゆうちょ銀行 00230-4-30769

（加入者名：神奈川県環境学習リーダー会）